

I 平成 30 年度の運営総括及び来期の課題

1. 乳幼児事業

(1) 総括

昨年度に引き続き、今年度も南区内だけでなく西区や中央区、秋葉区等様々な地域から多くの乳幼児親子が来館されました。特に区外は、友達の見紹介や口コミなどで知ったという方が多く、少しずつ白根北児童館が地域に浸透してきていることを感じました。最初は1組で来館された親子も、児童館の中で出会った親子と親しくなり、徐々に複数組で集まって来館するようになってきました。白根北児童館を拠点として、母親同士子育てや生活についての悩みを話し合ったり、共にイベントに参加して楽しんだりすることで日頃のストレスを解消しているようにも感じました。母親の中には、児童館で出会った親子と保育園も一緒になりとても心強かったと話してくれた方もいました。また、今年度は特に職員も利用者との関わりを大切にしてきました。来館の挨拶から始まり、親子の触れ合いの時間を大事にしつつ職員が中に入って会話をしていくことで子育ての悩みやイベントの要望などを聞き出すことができました。それらの声を普段の運営やイベントに最大限活かしてきました。その結果、イベントのアンケートでは「昨年よりも良かった」「継続してほしい」といったプラスな評価をして下さる方が増えました。今後も、普段の関わりを大切に利用者のニーズや要望に少しでも多く応えられるように職員同士で努力していきます。

① いちごタイム (作って遊ぼう・農園の活動)

毎週火曜日の10時30分から概ね20分程度、乳幼児の定例イベントとして、『いちごタイム』を開催しました。『いちごタイム』は主に入園前の乳幼児を主対象としていますが、夏休みや春休み中は保育園児や幼稚園児の参加も多く、とても賑わっていました。内容は主にお返事遊びや手遊び歌、親子の触れ合い遊び、絵本の読み聞かせ、季節にちなんだ遊び、体操等を提供してきました。参加組数は平均3~10組で、月齢は1~2歳児が多かったです。最初は慣れずに活動に参加すること自体が難しかった子どもも、回を重ねる毎に徐々に他の友達と一緒に参加することができるようになっていたり、できなかった手遊び歌ができるようになっていたり1年を通して成長を感じることができました。後半は、保育園入園前で集団生活に慣らす練習のために参加される親子もいました。

また、今年度からいちごタイムの中に『作って遊ぼう』や農園での活動も取り入れてきました。『作って遊ぼう』では、紙コップや風船、画用紙など様々な題材を使って親子で簡単なものを制作しました。子どもたちはシールを貼ったり、クレヨンで自由に描いたり楽しみながら参加していました。農園の活動では、じゃがいもやさつまいもの苗を植えたり、収穫したりして土と親しむ機会を設けました。より子どもたちが興味を持って参加できるように、事前にペアサートや遊びの中でじゃがいもやさつまいも掘りの擬似体験をすることで、実際に外で活動する時にスムーズに行うことができました。収穫時には、皆で試食をしたり帰りにお土産として持ち帰ってもらったりもしました。

② ホット・ほっとタイム・幼児絵本タイム

毎月第3木曜日の10時30分から1時間程度、子育て中の保護者を対象とした『ホット・ほっとタイム』を開催してきました。育児中の母親にコーヒーや紅茶を飲みながらホッと一息つける時間を持ってもらおうと同時に子育て中の悩みや喜びを共有してもらっています。母親が

テーブルでゆっくりとお茶を飲んでいる間、子ども達は好きな玩具を持ち寄って自由に遊んでいます。職員も子どもの見守りに入ったり、母親たちが気軽に話せるような雰囲気作りや橋渡しを行ったりしてきました。ホットほっとタイムの前には、『幼児絵本タイム』（昨年度までのパンダタイム）を設け、0～3歳児向けの絵本や紙芝居の読み聞かせを行いました。子どもたちは母親の膝の上で最後まで集中して絵本を観ていました。

③ ママのためのハッピータイム（ママハピ）

子育て中の母親に少しでも HAPPY な時間を過ごしてもらおうと2年前から実施した『ママハピ』は好例行事となり今年度は5回の実施となりました。毎年好評の「足つぼマッサージ」は母親たちの強い要望で5月と12月の2回開催にし、どちらもキャンセル待ちが出る程の人気でした。継続して同じ講師のため、複数回参加されている方はよりリラックスして施術を受けられていました。7月と9月には、常連で来られている母親達の意見で「フォトスクラップ」と「ハーバリウム」を行いました。「フォトスクラップ」は、台紙に我が子の写真を貼り、周りにシールや絵を描いてデコレーションしていくものです。「ハーバリウム」はビンの中に好みのドライフラワーを入れて最後にオイルを流し込むという近年流行っているものです。どちらも作業工程は単純ですが、参加された母親たちはこだわりながら時間をかけて完成させていました。11月には、農園で採れたさつまいものつるを使って「クリスマスリース作り」を行いました。リース作りは昨年度も実施していますが、今年度はリースの形をつくることから参加者達にやってもらいました。自分の思い描く形や大きさに近づけようと試行錯誤しながら素敵な作品に仕上げていました。どの回も、参加された方々は皆生き生きとした表情でリフレッシュしているようでした。普段子育てで忙しい中でも、ほんの一時このように自分だけの時間が持てることでまた新たな気持ちで子どもと向き合えるのではないかと思うので、来年度以降も希望を聞きながら開催できればと考えています。

④ ちびっこ運動会

毎年家族連れでの参加が多い『ちびっこ運動会』は今年度も16組51名の参加がありました。対象は未就園児ですが、日曜日開催だったこともあり普段保育園に通っている子も複数名参加しました。これまで子どもが主となって行う競技が多かったのですが、今年度は親子競技をメインにして行いました。最初に全体で記念撮影をした後、音楽に合わせて親子で入場行進を行いました。子どもたちは、母親や父親と手をつないでこれから始まる運動会にわくわくしながら笑顔で行進していました。その後、職員の動きに合わせて体操を行い、かけっこや変身借物競争、玉入れ、パンくい競争など様々な競技を楽しみました。最後に一人一人にメダルを授与すると、子どもたちは嬉しそうな表情を見せていました。今年は、両親や祖父母も一緒に参加されている家族が多く、競技に参加する方と、カメラやビデオ撮影をされる方でバランスよく分かれていました。最後のアンケートの中には、小規模の保育園で運動会がないためとても有難いという意見もあり、今後も『ちびっこ運動会』の必要性を感じました。

⑤ にゃんこの手（オーエンジャー☆みなみ）

子育てオーエンジャー☆みなみは子育て中の母親に研修を受けたボランティアの人がお茶やハンドトリートメントなどを提供しながら育児中の母親の悩みをサポートするボランティア団体です。白根北児童館が位置する北部では『にゃんこの手』と命名し、2年前から児童館でも活動を始めました。家に閉じこもりがちな親子から気軽に参加してもらい、オ

ーエンジャーや参加者同士で子育ての悩みや相談を聴くことを目的に実施しました。内容はお茶やお菓子を出しながらハンドトリートメントやUVレジン等を提供し、今年度は3回の開催となりました。参加した母親は気楽にオーエンジャーや職員に話しかけたり、母親同士もお茶を飲みながら楽しく交流している場面が見られました。中には、自分の趣味で作っている「スイーツデコ」を他の母親たちにも広げていきたいという方もいて、オーエンジャーメンバーへの加入を提案したところ「やりたい」と声をあげてくれた母親もいました。さっそく来年度からオーエンジャーの一員として『にゃんこの手』の中でスイーツデコを行うことが決定しています。このように今後も利用される母親の中からオーエンジャーに入る方が増えて、活動の輪を広げていきたいと考えています。

⑥ 移動児童館・園外保育

乳幼児の移動児童館では、大鷲保育園の年少～年長児を対象として各クラス12月、2月、3月の計3回実施しました。当初は12月に年長児のみの実施予定でしたが、急遽要望があったため他のクラスでも実施することが決まりました。内容はカプラを使った遊びを提供しました。カプラの魅力を伝えるために、導入でナイアガラやスカイツリー、東京タワー等の作品を見せると、子どもたちは目を輝かせながら見てくれました。基本の「寝る・立つ・起きる」の置き方やカプラで遊ぶ時のルールを教えた後、実際に子どもたちの好きな作品を自由に作ってもらいました。最後には「塔倒し」というゲームも行いました。チームに分かれて一人ずつ行くと、皆ハラハラドキドキしながら楽しんでいました。カプラは保育園にも置いてあるそうですが、数が少ないためここまでダイナミックにできないと先生方は話していました。子どもたちの創造力を伸ばす遊びでもあるので、普段児童館になかなか足を運べない地域に出向いて今後もカプラの素晴らしさを伝えていきたいです。

園外保育では、今年度はガディウス・いぶき保育園の園児たちが9月～12月にかけて多く利用されました。いぶき保育園とはこれまで繋がりがほぼなかったのですが、園外保育や移動児童館の存在についてお伝えしたところ、園外保育に行きたいという依頼を数回受けました。園児たちは、グループに分かれて集会室、図書室、遊戯室の3つの部屋での遊びを楽しんでいました。保育園にはないおもちゃがたくさんあるようで、1時間の中で夢中になって遊んでいました。また、9月には農園で育てていたミニトマトの収穫体験をしたり、12月には児童館で行ったクリスマスミニコンサートに参加してくれたりと多くの関わりを持つことができました。保育園児と未就園児が触れあえる良い機会にもなりました。

⑦ 季節イベント

定例の乳幼児イベントの他に季節に合ったイベントも多く実施しました。春はじゃがいもやさつまいもの苗植え体験、7月七夕会、9月縁日ごっこ、10月ハロウィン、12月クリスマス会、2月豆まき会、3月ひなまつり会とそれぞれの季節を感じながら月齢の低い乳幼児でも無理なく参加できる内容を提供してきました。イベントの企画段階で利用者に内容についての要望を聞いたところ「写真スポット」があると楽しめるという声が上がりました。近年母親達の中で、我が子を写真に収めたいという方が増えていることや、0歳児はそもそも手遊びやゲームに参加することが難しいことなどの理由で、「写真スポット」の需要が高まっているようでした。各イベントで「写真スポット」や「お昼寝アート」などのブースを設けるととても人気で、1人から友達同士、母親と一緒になど様々な写真撮影を楽しんでいました。特にハロウィンでは仮装をしてくる子供が多く、華やかに着飾った衣装でそれぞれ楽しんでいました。今後も、その都度利用者の声を聞きながらイベントの

内容を柔軟に変えていきたいと思ひます。

⑧ 農園でのフリーゾーンの活用

今年度から、農園の一部を利用者に貸し出し自由に農作物を育てられるフリーゾーンを提供してきました。おたよりで募集をかけたところ、3組の幼児親子から申し込みがあり、7月頃から開始しました。それぞれミニトマトやきゅうり、パプリカなど育てたい苗を持って来てもらい、職員と共に植えました。時々、様子を見に来たり子どもが水をあげたりと収穫を楽しみにしている様子が見られました。収穫時には、親子で喜びを味わい袋いっぱい採れた野菜を詰めている姿が印象的でした。畑や土との触れ合いが減っている今、利用者自身が苗植えから収穫まで体験する機会はとても貴重だと思うので、今後も継続していけたらと思ひます。

(2) 来期の目標・課題

① 児童館 PR 活動の強化

初めて利用された方の話を伺うと、児童館の存在は知っていても「0歳～18歳までの子どもが利用できる」ということは知らなかったという方が大半です。まだまだ児童館の認知は低く、今後も根気強くPR活動を行っていく必要があります。まずは利用された方との関わりを大切に、また遊びに来たいと思ってもらえるような雰囲気作りを心がけます。そこから紹介や口コミで広がるのが理想です。また、移動児童館として積極的に地域に出向き、児童館を知ってもらふ機会を多く作りたく思ひます。そもそも「移動児童館」の仕組みを理解していない保育園もあるので、まずはその周知から始めたいと思ひます。保育園だけでなく、地域の祭りやコミ協主催のベビーマッサージ等にも参加して幅広くPRができればと思ひます。

② 保育園同士の交流

今年度は移動児童館や園外保育等で各保育園との関わりを持つことが出来ました。また、平日の夕方には保育園帰りの園児たちの利用も多くありました。来年度は、児童館を拠点として保育園同士の交流会ができればと考えています。特にいぶき保育園と大通保育園の園児たちは、卒園後同じ小学校に入学する子が多いことから年長児を対象に企画できればと思ひます。保育園時代に児童館で遊んだ経験をその後も小学校、中学校、高校と繋げていくことで子どもたちの中で定着していくと思ひます。まずは、各保育園と密に連携をとって、イベントの内容や時期等を検討していきたいです。

2. 小学生事業

(1) 総括

今年度の小学生の延利用者数は7,742名と今期も来館者カテゴリーの中で一番多い利用者数となりました。特に7月～8月の夏休み期間は、毎日多くの小学生が遊びに来てくれました。普段の平日の利用は低学年が多く、下校時間の関係で高学年は足を運ぶのが難しかったようです。それでも、土日や長期休みになると自転車や送迎等で児童館を利用する児童もいました。主な遊びとして、ドッジボールやバレーボール、バドミントン、卓球、一輪車等で元気に体を動かしたり、集会室でレゴブロックやボードゲーム、ぬり絵などで静かに遊んだりそれぞれの過ごし方を楽しんでいました。高学年の男子達は、新たに自分の腕をバッド代わりにして野球をして遊ぶ姿も見られました。ボールが天井に挟まったりして様々な問題点も出てきました

が、その都度子ども達で遊び方を考えて工夫をしていました。ドッジボールでは異学年同士で行うことも多く、上級生が下級生に優しくルールを教えたりボールを譲ったりする場面が見られました。普段の遊びの中で子どもたちは相手への思いやりや言葉遣い、協調性を少しずつ学びながら日々成長していきました。また、今年度は子どもたちの主体性を大切にして、イベントの内容から子ども達自身で考えて行うこともありました。主に上級生が前に出てみんなの意見をまとめながら遊びを考えて実施していました。職員がイベントを考え全て提供するのではなく、子どもたちの考えを踏まえて共に運営することができました。今後も、子どもたちが主体となる機会を増やし、様々な経験の中で達成感や成功体験を味わってもらえたらと思います。

① わくわくタイム

毎週水曜日の 16 時 30 分から 30 分間、小学生を対象に遊戯室で体を動かす遊びやレクリエーションを行いました。夏休みの期間は「わくわく週間」という名前で 1 週間毎日決まった時間に皆で遊んだりもしました。今年度から週ごとに大まかな遊びの内容を決めておき、当日小学生の希望で細かい内容を決定して実施することになりました。第 1 週は鬼ごっこやリレー、第 2 週はレクリエーション、第 3 週はドッジボール、第 4 週は子どもたちで決めるというように分けています。特に第 4 週は内容を決めるところから始まるので、それぞれの意見がまとまらずにほぼ遊べないということもありました。それでも子どもたちは時間をかけながら相手の意見を尊重し、どうすればみんなが楽しく遊べるかを考えました。10 月から 3 月までは、小学生の退館時間が 17 時になることから開始の時間を 15 分繰り上げて実施しました。冬季期間は、来館者数自体が少ないのですが、わくわくタイムを目がけて来館してくれる子もいました。小学生の中には、まだまだ異学年同士で遊ぶことが苦手でイベントに参加しないという子もいるので、今後さらに内容ややり方を検討していく必要があります。

② 作って遊ぼう

工作イベントとして、毎月第 3 土曜日の 14 時～15 時に『作って遊ぼう』を実施しました。工作では、身近な素材を使った工作遊びを通じて、物を作る楽しさ、作ったもので工夫しながら友達と一緒に遊ぶ楽しさを知ることを目的としています。材料は段ボールや紙皿などほとんどが廃材や身近な材料で行いました。今年度は「小麦粉風船」や「粘土マグネット」、「ペーパールービックキューブ」、「紙皿フリスビー」等男女共に楽しめる内容を提供しました。特に「小麦粉風船」はとても人気があり、急遽夏休みの特別企画としても実施しました。子どもたちは思い思いの作品を作り、完成すると嬉しそうに持ち帰っていました。帰りに迎えに来られた保護者に自慢げに見せている小学生もいました。今年度は予約制にしていたのですが、より気軽に参加できるように来年度から当日の先着で行いたいと思います。

③ メインイベント

児童館のメインイベントとして、七夕会やハロウィンパーティー、クリスマス会、豆まき会、ひなまつり会等の季節のイベント、夏まつりや春まつり等の祭りイベントを開催しました。夏まつりでは、小学生ボランティアの募集をかけて 6 名の有志たちに準備から当日の運営まで携わってもらいました。準備では、スタンプカードの紐を切ってカードの穴に通す作業や、カードが切れないように補強のテープを貼る作業等を行ってもらいました。当日は実際に遊びのブースの中に入りスタンプを押したり子どもたちを並ばせたりする役割をしてもらいました。皆職員の指示を聞きながら積極的に動いてくれました。まつり終了後には「楽しかったからまたやりたい」と話す小学生もいました。その他、オープニングで地域の小学生ダンスチームの発

表をしたり、来館する小学生に折り紙で鶴を折ってもらい、当日折り鶴アートとして飾ったりと、今年度の祭りは小学生主体のものとなりました。季節のイベントでは、ハロウィンパーティーがとても人気で今年も多く的小学生が仮装をして参加してくれました。昨年度から定員を設けずに入り自由にしたことで、区外の小学生も家族で足を運んでくれるようになりました。今後も子ども達の意見を取り入れながら楽しいイベントを企画していきたいです。

④ 移動児童館

移動児童館は児童館を知ってもらうこと、様々な遊びを通して心身共に豊かに成長していく環境づくりのお手伝いを図ることを目的としています。今年度は5月に西区の大野小学校ひまわりクラブ、6月と10月に大鷲学校1～2年生の授業、8月に根岸小学校ひまわりクラブにそれぞれ出向き、絵本の読み聞かせや遊び・工作の提供、カプラの提供を行ってきました。また、10月には大鷲小学校、根岸小学校の文化祭でもカプラや工作の提供を行い、様々な場面で携わることができました。普段なかなか児童館に行くことが難しい大鷲、根岸地域の小学生にとっては、児童館を知るきっかけにもなり、移動児童館を終えた後、土日に保護者と一緒に来館してくれた子もいました。

⑤ 地域住民によるイベント

今年度は、地域のボランティア2名の方からイベントを提供していただきました。1人は、地元でサッカーチームの監督をされている方で、月に1回「つまきさんと遊ぼう」という企画でボールを使った様々な遊びを提供してもらいました。2月には、「わくわく運動教室」という名前で幼児親子も参加できる内容を企画しました。普段なかなか親子で体を動かす機会が少ないため、皆さんとても楽しんでいました。後半は、小学生の中でも「つまきさんと遊ぼう」のイベントが定着してきているようで楽しみにしていました。もう1人は、地元でセーフティスタッフをされている方で、小学生に紙飛行機飛ばしや独楽作りを教えていただきました。紙飛行機では、誰が一番遠くまで飛ばせるか来館している小学生全員で勝負をしたり、独楽作りでは段ボールを使って本格的な独楽の作り方を学び、最後に独楽回し大会をしたりもしました。来年度も地域の方と関わられる機会を多く作っていきたいです。

(2) 来期の課題・目標

児童館が開館し7年目を迎え、子どもたちの中でも遊びやイベントが定着してきました。特にメインのイベントでは、普段来ない子どもたちの参加も多く、改めて児童館で行われるイベントを楽しみにしている子どもが多いことを実感しました。一方で、まだまだ1～6年生全員が満足する内容を提供することは難しく、特に高学年になるとイベントに参加するというよりも普段の友達同士の遊びを目的に来館する子も多いです。逆にイベントの時にボランティアや下級生のお世話係を頼むと喜んでやってくれる子もいます。そこで、来年度は主に低学年はイベントに参加する主体となり、高学年はイベントを企画・運営する主体となるように2つの角度から子どもたちがイベントに携われればと考えています。特に祭りやハロウィンなど人気のあるイベントには主となって企画から入ってもらい、子どもたちの意見を最大限活かしたものが出来ればと思います。下級生は上級生の姿を見て学ぶ部分も多く、そこから生まれた関係性は普段の学校生活にも反映していきます。共にイベントを作り上げる楽しさや喜び、達成感などを味わい、今後の生活に繋げていければと思います。

3. 中学生・高校生事業

(1) 総括

中高生の年間利用時期は暖かい時期が多く、部活動帰りや週末にグループ毎で来館し3オン3コートでバスケットボールをしたり遊戯室でバドミントンや卓球を楽しんだりする姿が多く見られました。特に卒業時期である3月は、比較的どの学年も時間があるようで日中から夕方にかけて友達同士で遊びに来る子が多かったです。中高生男子の遊びは、バスケットボールやバドミントン、卓球など体を動かす遊びがほとんどでしたが、中高生の女子は館内で職員や友達とゆったりおしゃべりを楽しんでいることも多く、児童館がいつでも気軽に立ち寄れる『居場所』になってきていることを感じます。中には、久々に来館して職員と話す中で、学校生活の悩みを打ち明けてくれた人もいました。中高生の年代は、一番人間関係や将来について悩む時期でもあるので、我々職員も1人1人に寄り添いながら関わっていければと思います。

イベントでは、普段忙しくて来館自体が難しい中高生の現状を考慮して日にちを指定するのではなく月間や週間で行いました。期間が長い分、平日から休日までより多くの中高生がイベントに参加することができました。内容は、昨年度の夕涼みやハロウィンに加えて「チャレンジスポーツ月間」という月ごとにスポーツを変えて課題に挑戦するものを新たに取り入れました。バスケットボールやバドミントンなど普段遊んでいるスポーツなので気軽に参加することができて男女共に人気でした。春休みには、職員と遊びで勝負するというイベントも開催しました。子どもたちの中で遊びを決めて職員に勝負を挑むというものです。単純ですが、職員と子どもが関われるきっかけにもなり勝負の後にも話をしたりすることができました。今後も、中高生にとって居心地のよい『居場所』となるようにイベントや普段の関わりを大切にしていきたいと思います。

(2) 来期の課題・目標

① 中学生・高校生の『居場所』作り

中高生の年代になると、学校の授業や部活動、習い事等でそもそも児童館に足を運ぶこと自体が難しくなります。忙しさに加えて人間関係や進路のことなど悩みが多くなる時期に、児童館が息抜きするための1つの『居場所』になればと考えています。そのために、まずは「児童館に行ってみようかな」と思えるような工夫をしていく必要があります。来館した時には職員が密に関わり、信頼関係を築くと同時にまだまだ児童館の存在を知らない子も多いので中学校等にポスターを掲示して周知していきたいです。イベントの内容も、スポーツ系に加えて職員とのおしゃべりタイムや受験時期の学習応援タイム等を設けてお茶を飲みながらゆっくり話したり、勉強の息抜きのことを提供できればと思います。ストレスを抱えながら生きている中高生の心の拠り所となるように『居場所』作りをしていきたいです。

② 職場体験・ボランティア実習の受け入れ

今年度も中学校のコーディネーターさんから中学2年生の職場体験の依頼があり、7月に実施しました。中学2年生女子3名が参加し、主に幼児と関わったり実際に絵本の読み聞かせをやってもらったりしました。生徒たちは絵本を選ぶところから行き、前日にお互いに読み聞かせの練習を何度も行ってから当日を迎えました。保護者も見ている中で、緊張しながらも皆一生懸命取り組んでくれました。最後の反省時には「将来保育士になりたいから勉強になった」と話してくれた生徒もいました。児童館は乳幼児から中高生までが利用できることから、中学生と幼児が交流できる絶好の場所でもあるので是非活用してほしいと願っています。今

後も職場体験やイベントのボランティアなどで中高生に児童館の仕事を体験してもらう機会を作り、将来の自分の進路に役立ててもらえればと思います。